

ナギサノシタタリガイ *Microtralia acteocinoides* Kuroda et Habe in Habe

【選定理由】

県内では汐川干潟の河口域に発達したヨシ原湿地内より採集された(木村, 1994; 木村・木村, 1999)。打ち上げられた貝殻は知多半島2カ所から記録された(河合, 1999)。本来は内湾からやや外洋にかけての潮上帯付近の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。蒲郡市西浦半島の先端部の転石地は本種に好適な生息環境が存在し、健全な個体群を確認した(木村, 2001)。本種はウスコミミガイ *Laemodonta exaratooides* Kawabe と同所的に生息することが多いが、県内ではウスコミミガイと比べて生息地はさらに少ない。このような生息状況から、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



左：蒲郡市西浦町, 1999年7月2日, 右：田原市汐川干潟, 1993年11月4日, 木村昭一採集

【形態】

オカミミガイ科としては最も小型種で、殻長4mm程度。殻は長い卵形で、白色半透明。軟体部も白色で、触角の先端は細くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内には本種の生息環境が少なく、木村・木村(1999)のほか、1999年の調査で蒲郡市西浦半島先端部(木村, 2001)に生息地を確認した。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。西太平洋に広く分布するとする説もあるが、全てが同一種であるかどうかは検討を要する。国内では北海道南部から琉球列島まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾からやや外洋にかけての潮上帯転石地の、深く埋もれた石の下面が生息環境である。元々愛知県には多い生息環境ではないが、伊良湖岬の生息地のように海岸の護岸工事によって破壊される例も少なくない。本種の生息地である転石地、特に潮上帯部分は陸地に近く海岸の護岸工事等により破壊されやすい。

【保全上の留意点】

上述したような生息環境を破壊しないよう、不必要な護岸工事をしないことが重要である。

【引用文献】

- 河合秀高, 1999. 知多半島で得られたオカミミガイ類. かきつばた, (25): 12-13.
木村昭一, 1994. 汐川干潟(愛知県)で採集されたナギサノシタタリガイ. 南紀生物, 36(1): 75-76.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一, 2001. 蒲郡市西浦半島転石地のオカミミガイ科貝類. かきつばた, (27): 20-21.

(木村昭一)